

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立加茂高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和5年2月2日(木) 15:00～18:00
- 3 開催場所 岐阜県立加茂高等学校同窓会館2階会議室
- 4 参加者

学 校 側	会 長	長尾 陽一郎	全日制PTA会長
	副会長	松井 彰良	ウィンズコーポレーション代表取締役
	委 員	角田 雅彦	ツノダ住工取締役
		尾関 里佳	主婦(地域代表)
	松尾 和樹	可児市議会議員 NPO法人縁塾	
	武市 由紀子	元特別支援学校校長	
	井藤 勝夫	校長	
	大島 達史	副校長	
	伊藤 強	事務部長	
	小林 竜二郎	教頭	
	田内 俊文	教頭	
	吉川 敏幸	教務主任(全日制)	
	尾関 清光	教務主任(定時制)	
	酒井 宏昌	生徒指導主事(全日制)	
武藤 秀彦	生徒指導主事(定時制)		
山中 徹也	進路指導主事(全日制)		
渡辺 純也	進路指導主事(定時制)		

5 会議の概要(協議事項)

(1) 令和4年度具体的重点目標と年間反省について

学校側より、本年度の取組についての年間反省を説明し、学校運営委員より意見をもらう。

○全日制の年間反省

学校運営

- ・ 生徒・保護者対象の学校評価アンケートについて、回答方法としてインターネットを利用することで回答率が昨年の3.5倍となった影響もあり、否定的な回答が比較的多くみられた。来年度以降、この回答方法を継続し経年比較を行う。
- ・ コロナ禍の中、リモート授業がシステム化され自宅待機生徒への授業支援の推進が図られた。
- ・ 地域探究活動について、学校運営協議会で公開し、地域との繋がりを深めることができた半面、コロナ感染症対策のため、保護者への公開が不十分となってしまった。
- ・ 働き方改革を推進するため、校務分掌再編を含め、校内組織体制や業務内容の見直しを推進する必要がある。

教務部

- ・ 学習への意欲向上を図るため、ICTの活用を推進し家庭学習に繋がる授業改善に努める必要がある。
- ・ 文理選択で人数に偏りがあり、1クラス当たりの生徒人数に差が出ている。より効果的な授業展開やカリキュラムを検討する必要がある。

生徒指導

- ・ 遅刻指導については、現在実施している予鈴での遅刻指導者リストや、遅刻を繰り返す生徒のリストを学年会に提示し、連携して個別指導を行う必要がある。
- ・ 交通安全指導として、MSリーダーズが校門等で啓発活動を行っている。本年度は、事故件数が減少した。

進路指導部

- ・ 現時点で総合型と学校推薦型選抜を合わせて国公立大学に8名合格しており、来週にも共通テスト型推薦の国公立大学の可否結果が発表される予定である。
- ・ 1,2年次に高い進学目標を設定できるような仕掛けを学年と連携して計画する必要がある
- ・ 1,2年次の総合的探究の時間の内容を学年と共有しながら、キャリア学習としての意義を高める必要がある

○定時制の年間反省

教務部

- ・ 学び直しにより基礎学力を高める実践は、生徒・保護者ともに評価が高い。
- ・ 日本語能力試験などを受験者数が減少した。

生徒指導部

- ・ 昨年に比べて事故や事件の件数は減っている。
- ・ コロナ感染症対策のため、SHRに代わり登校する生徒に健康チェックを実施している。今後はSHRの復活も考えている。

進路指導

- ・ 現時点では、進学が5名（4年生大学1名）、就職が13名である。キャリアプランナー導入により、新規企業を開拓する取組をしている。

特別活動

- ・ 部活動が活発であり、文化祭などの学校行事もできるようになった。来年度はさらに活性化し、生徒の力で実施できるよう準備していきたい。

○学校運営委員からの意見

意見1

- ・ 進学校は勉強のイメージが強かったが、地域課題研究の発表会を見て、自分の考えを発表する力はこれからも必要であるため、是非続けてほしい。
- ・ 探究活動は、保護者になかなか知られていないのが現状である。もっと知ってもらうべきである。
- ・ コロナ禍になってから、生徒が笑って授業を受けている姿を見てなかったのが、笑っている姿を見ることができて、うれしかった。

意見2

- ・ 自分たちで地域課題や問題を見つけて、解決に向けて考え、その考えを人に伝えることができる力は社会に出たら教養以上にとっても重要であると思う。
- ・ 若い子なりの意見を聞くことができて参考になった。来年からもさらに発展させて活動を続けてほしい。
- ・ 今後、コロナ前の状態に戻るかもしれないが、その際に家庭によって環境が異なりと受け取る情報量に差が出る可能性もある。全員が平等な環境を整えることも必要に

なるのではないか。

- ・ 遅刻の理由には、本人の問題、家庭の問題、心の問題など、それぞれの生徒にそれぞれの理由があるので、それを含めた上でサポートしてあげてほしい。

意見3

- ・ プレゼンする能力を養うことは難しいことではあるが、とても必要なことである。
- ・ アンケート方法をインターネット上での回答に変更したことはよかったと思う。今までは特定の人しか答えていなかったが、インターネットにすることでいろいろな人が答えるようになり、受け取る側にとっても多くの意見を得られるのでよいと思う。
- ・ 文武両道ではあるが、制限も多い。勉強のみに力をいれるのではなく、外部の協力を得ながら部活動も充実させ、人間教育に力を入れてほしい。
- ・ 金銭面については、同窓会を含めて相談していければと思う。

意見4

- ・ 地域探究は人間力育成の中で非常に大切である。しかし、教師の負担も増えるだろう。地域の者が行うとしても、日々生徒と接している教師でないと関われない部分もあり、教師の業務が増えることは避けられない。どう地域の方と関わっていくか、今後の課題である。

(2) 令和4年度探究活動の振り返りと来年度の活動予定

学校側より、令和4年度の地域探究活動について説明し、学校運営委員からの意見をもらう。

○学校からの説明

- ・ 1年生の探究活動について、本年度の教材として利用してきた「ローカス」については、1年生の段階で取り組むものとしてはやや難易度が高かった。そのため、探究活動を行う上で、より自己理解や自己分析を重視したほうがよいと考え、来年度は「学びみらいPASS」を利用する予定である。一方、本年度実施した「地域の大人と語る会」については、来年度も継続する予定である。
- ・ 2年生の探究活動について、来年度も本年度同様、美濃加茂市と連携した探究活動の推進を行いたい。

○学校運営協議会委員からの意見

意見1

- ・ 「3年間をかけて地域課題で何ができるか」の流れができており、段階を踏んで学んでいくのでよいと思う。

意見2

- ・ 1年生で地域課題について触れ、2年生で各自が課題を絞り込み、地域の方に来てもらい総括的な話をしてもらう。そして、地域課題発表会で自分の意見を皆さんに伝える経験ができてよかった。
- ・ 自分の地域の課題がわかるだけでなく、今後他の地域に住んだとしても、その地域の課題について考える機会となるのがよい。

意見3

- ・ 美濃加茂市長に限らず、いろんな方たちに来ていただいて、10～15分ほどずつ講演をしてもらえるとよい。
- ・ 生徒の皆さんには、よい人間として成長してもらい、地元企業に貢献してもらいたい。そして、成長して地元に戻ってきてほしいという思いがある。
- ・ 探究活動のアンケートについて、回答人数は何人か？
→ (教頭) コロナ関係の欠席者が多いため、全員ではない。アンケートの取り方は書面ではなくオンラインで行った。

- ・ できる限り、授業を受けた全員にアンケートをとってもらいたい。

校長

- ・ 現3年生は入学次コロナ休校を経験している生徒。コロナ対応のため、行事等に制限があり、生徒同士の十分な人間関係が築けているか懸念がある。しかし逆境の中だったからこそ、学べたことも沢山あった。制限のあるなか、学校行事について新たな提案を出す生徒等もいる。自分で考えて勉強できる姿勢が身についたのではないだろうか。未知の課題に対して皆で協力し合って解決策を見つけていく。本日の探究活動はスタートであり、これをきっかけに発展させ、社会に出たときに役立ててほしい。

意見4

- ・ 3年間を通した取組が大切である。理想は、研究発表した課題を今後に生かし、大人と関わり合い、社会に出た時、自分の強みとすること。この強みをどう生かすか、結果を意識しながらフィードバックすることが大切。

6 会議のまとめ

第3回学校運営協議会では、本校全日制で実施されている「地域探究活動」について、学校運営協議会委員の方々が参観するとともに、定時制の普段の授業についても参観することができた。

また、令和4年度の年間反省について学校運営協議会委員の方々より貴重な意見をいただき、来年度の方針や方向性についても賛同していただいた。これらの意見を来年度の学校運営等に生かしていきたい。